菜の花

――春の新七草の賦のその一ツ――

長谷川時雨

青空文庫

水油なくて寢る夜や窓の月（芭蕉）

の句は、現代のものには、ちよつとわかりにくいほど、その時代、またその前々代の、古い人間生活と、菜の花との緊密なつながりを語つてゐる。いま、わたしたちが菜の花を愛するのもさうした祖先の感謝をもつて、心の底に暖かみを感じてゐるのかも知れない。日の光りと、月光と、薪の火と、魚油しかなかつた暗いころの、燈し油になるなたねの花は、どんなに大切なものであつたらう。そのほかの、菜の花とよばれる幾種類のものが、みんな、われわれの生活に必要であることは、今日でも變りはない。

菜の花は、誰にも親しみをもたれてゐる一般的な花だ。葉の中にかじかんでゐるまだ青い時分から、伸びきつて、種になつてゆく末まで、一莖の姿もよければ、多ければ多いほどよく、花の集まつた美觀は、春の新七草のなかでも、豐けさにおいて第一といへよう。大きな眺めでありながら、平凡な、民衆的美觀ともいへよう。

古くは雪間の若菜として、いさぎよい青さと珍しさをめでられたが、近代人の感覺は、春の色の基調として菜の花の「黄」を推奨する。灼熱の夏日の紅に移る一歩前、陽光さんさんと降りくだつて、そこに菜の花は咲きつづき、和ぎと喜びの色に照りはえ、展べひろげられ、麗かに、閑に國を包んで、朝に明け、夕べに暮れてゐる。

菜の花は平和を好む蒼人艸に似て、親しみぶかい花だ。

（「東京日日新聞」昭和十一年四月十六日）

青空文庫情報

底本：「桃」中央公論社
　　1939（昭和14）年2月10日発行
初出：「東京日日新聞」
　　1936（昭和11）年4月16日
入力：門田裕志
校正：仙酔ゑびす
2008年12月7日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

菜の花

――春の新七草の賦のその一ツ――

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　長谷川時雨
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/